

朽ちない言が語る朽ちる人

2021年8月15日

詩篇 90篇 神の人モーセの祈り

序：人生の無常 : 伝道者の書、平家物語、白骨の御文 (by 蓮如) ⇒ 葬式、法事
聖書の死生観 (まことの神がおられる)

日本人は、死を悲しみ、はかなむが、死そのものを直視しない
人は自然に死ぬものだ (死は実際は不自然)
感傷、あきらめ、死を考えないでやりすごす
死の解決がないまま、生涯の終わりを迎える
人生無常には共感するが、無神論ゆえ死は全ての終わり
死を恐れない、美化しない、考えない

神の人モーセ : B.C. 1500~1400頃

イスラエルをエジプトから約束の地カナンに導く指導者
出エジプト~40年の荒野での放浪 (民の反抗、不信仰、不従順)
ピスガの山頂から、カナンを眺望 (入ることはできなかった)
主が彼をモアブの谷に葬った (だれも知らない)、120才

歌ではなく、祈り 申命記=最晩年に次世代へあらためて神の命令を伝えた
90篇= " の祈り (祈りの人、神の人、神の友)
苦節の人生 とりなしの祈り

I. 神は永遠・不変 1~2節

本来人間は、神を住まいとして永遠に生きるはずの者だった
神はすべてのものの創造主 (人間はその神によって造られた)
この天地創造以前から、神はおられる (永遠から永遠まで) (始めも終わりもない)
創造主は永遠・無限 被造物は一時的・有限

II. 人間は有限・移ろう 3~6節

神の子 (不死) ⇒ 人の子・アダムの子孫 (死)
一定の短い期間地上に送られた ⇒ 時が満ちて、神に帰る (眠りに落ちる)
短さ・迅速さ = 千年も昨日のよう、1日のよう
夜回りのひとときのように 洪水に押し流されるよう
灼熱の風で瞬く間に枯れる砂漠の草や花のよう

いのちを与えるのも、それを取られるのも神 / 年、月、日、時の支配・統治

III. 死の原因 = 罪 7~10節

神の怒り・憤り ⇒ 人間の不義、悪、罪咎
おじ感う、消え失せる

神の前に、神の目に隠しおおせるものはない、すべてが明白 (不義も秘め事も
マタイ 10・26 さらけ出される)

罪の報酬（結果）は死　ローマ　6・23
人の生涯のすべての日々が、主の激しい怒りの波に吞まれ、一息で終わる

避けられない、無視できない現実
人の一生は70～80年、　労苦と災いの連続
しかも、あっという間に飛び去る

IV. 祈り　　12～17節

- (1)自分の日を正しく数えることを教えてください
人生は永遠ではない
思う以上に速く過ぎ去る
限られた年月をどのように生きるか
- (2)知恵の心を得させてください
（自分は無知で邪悪で愚か、有限で無力 = 自分の真の姿）を悟る知恵
今さえ、自分さえよければ、という罪深い浅薄さ
自分は自分の人生がいつ、どのように終わるのかを知らない
いつであっても良いように、備えて
- (3)あわれんでください
朝、恵みで満ち足らせてください（日毎のマナ）
喜び、歌い楽しませてください（悩みと災いに苦しんだ日数を償う）
- (4)あなたの御業と威光を見せてください
あなたのしもべに
”　　”　　の子孫に
- (5)私たちの手のわざを確かなものにしてください
主のご慈愛を我らの上に置いて
諦めたり、いい加減に放棄せずに
手のわざを確かに生きる
∴ 私たちの労苦は、主にあって、決してむだではない
∴ 主はそれらのわざに対して報いてくださる（再臨、携挙の後）

結び：元来は神とともに永遠に生きる者として創造された
アダムにあって墮落したすべての人は死すべき者、有限、無力、愚かな者となった
死は罪の結果　自然なものではない
神が備えられた救い（キリストの贖い、自分のためと信じる信仰）
永遠なる神とともに永遠に生きる者とされた奇しさ・幸い
死に勝利、永遠のいのちの授与、確かな希望　⇒　神に仕える